

免疫のお話『アナフィラキシー』編

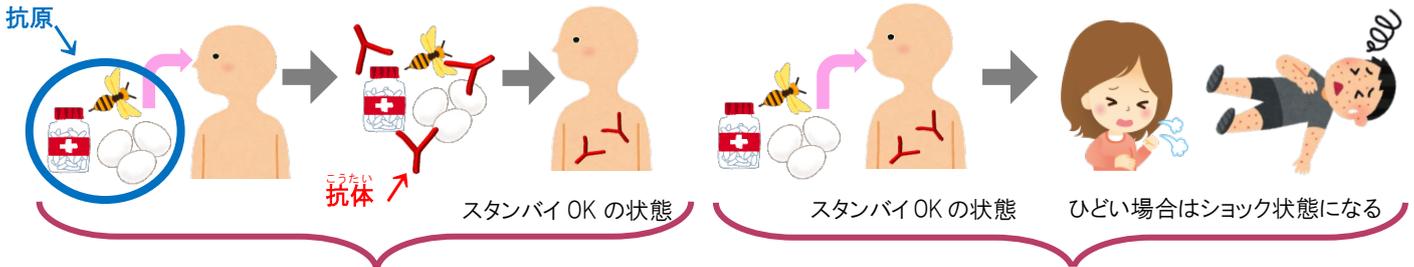


11月号では、体が病原体(ウイルスなど)を“抗原”と認識することについて説明しました。今月号では、体が誤って食物、ハチ毒、医薬品などを“抗原(アレルゲン)”と認識した後、再び抗原が体内に侵入したときに起こる可能性のあるアナフィラキシー(5~30分で全身に症状が出る強いアレルギー反応)について説明します。

アナフィラキシーとは

抗原(アレルゲン)の侵入 1回目

抗原(アレルゲン)の侵入 2回目以降



スタンバイ OK の状態となる

スタンバイ OK の状態になると、アナフィラキシーが起こりやすくなる

アレルギーを起こす原因物質の抗原(アレルゲン)を初めて食べたり触れた時、いきなりアナフィラキシーが起こることはまれで、たいていは軽いアレルギー反応のみです。しかし体は、アナフィラキシーがいつでも起こってしまう準備段階、『スタンバイ OK』の状態(これを専門用語で感作といいます)になります。これにより、アナフィラキシーが起こりやすくなってしまいます。ハチに刺された場合、1回目よりも2回目以降の方が危ないと言われているのは、そのためです。アナフィラキシーが重度の場合、ショック状態(全身の臓器・組織への血流が悪くなる生命危機の状態)になることもあります。

エピペンとは

アレルギー持ちの人*は、「エピペン」という右の写真のような注射薬を自分で持っている、もしくは保健室など学校で保管しています。

アナフィラキシーが重度の場合、放置すると死に至ることがあります。そのため医師の治療を受けるまでの間、症状の進行を一時的に遅くし、ショック状態になることを防ぐための自己注射薬「エピペン」が必要になります。

「エピペン」は、周囲の人が本人に注射してあげてもかまいません。

- ・体中に赤み・ぶつぶつが出る
- ・くしゃみや強い咳が出る
- ・ゼーゼーする呼吸
- ・目や口が腫れる
- ・腹痛、吐く
- ・顔が青白い、立ってられない

などの症状が複数同時に現れたら重度なので、迷わず「エピペン」を使用し、その後すぐに救急車を呼ぶ必要があります。「エピペン」が必要かも？と思ったらすぐに近くの大人を呼びましょう。

エピペンについて詳しく知りたい人は出張相談会にぜひ来てください◎

* 食物、ハチ毒などにアレルギー反応を起こす人(花粉症の人などは除きます)



参考：ファイザー株式会社 HP

《 出張相談会 — 保健室に薬剤師が来ます 》
おくすりナビ、医薬品や健康などについて、質問・相談がある人は保健室まで！
12月11日 午後1時05分~1時25分

作成・発行元 北陸大学薬学部 准教授(薬剤師) 大柳賀津夫
北陸大学薬学部薬学科5年生 喜友名侑舞・仲田里穂